

令和5年香美市議会定例会 12月定例会議 市長提案説明

本日、議員の皆さまのご出席をいただき、令和5年香美市議会定例会 12月定例会議が開かれますことに、厚く御礼申し上げます。

議案の説明に先立ち、最近の香美市の取り組みを例に挙げながら、私の政治姿勢や市政運営についての考え方をご説明させていただきます。

まず、やなせたかし先生の生き様や作品に込めた思いを伝える、展示館の建設についてであります。

今年の10月13日は、やなせたかし先生がお亡くなりになって10年の命日でした。命日の朝、朴ノ木公園にて、先生と奥様のお墓参りをさせて頂き、先生の生き様や作品に込めた思いをしっかりと後世に残すべく、展示館の建設を含め、市長として取り組んでいく決意をご報告いたしました。

今年は、詩とメルヘン絵本館が開館25周年、絵本「あんばんまん」が誕生して50周年ということで、関連する企画展などが開催されています。やなせ先生と一緒に仕事をされた方とお話しする機会も多くあり、先生がゆかりの方々に与えた影響の大きさを、改めて知ることとなりました。

私としましては、これまでも議会でお話しさせて頂きました通り、先生の展示館建設について、5年後の令和10年を目指しております。

そこで、この展示館建設も含めた今後の取り組みについて、先月11月20日に、公益財団法人やなせたかし記念 アンパンマンミュージアム振興財団、株式会社やなせスタジオ、株式会社フレーベル館と話し合いました。

この中で「やなせ先生のお人柄や生き様などを紹介する展示を、これまで以上に充実させる必要がある」との共通認識を確認することができました。

一方で、私の考え方と財団の考え方の違いも明らかになりました。

財団の目指している展示館建設の目的は、私が提案した集客を目的とした展示館ではなく、収蔵庫と事務所を併設した、現在の施設を補完する建物を、財団の資金だけで建てること。また建設の時期は、積み立てている基金が、目標額になった時点で建設することなどです。

私としましては、財団は、先生の作品保存だけに重きを置くのではなく、先生の理想や作品に込めた思いも広く知って頂くべく機能を充実させ、多くのお客様をお迎えし、そして地域の活性化にも貢献して頂きたいと考えております。

財団としては、結論を出しているとのことですが、私としましては市議会の皆さまのご賛同が得られれば、香美市で建設費補助の予算を計上させて頂き、ぜひ、やなせ先生について、多くの方々に知っていただく、という意味での集客機能も付加する形で、5年後の建設を目指したい思いがあります。

そもそもの、生前のやなせ先生と旧香北町との関係を振り返ります。先生が旧香北町の名誉町民になられた時、旧香北町長である野島民雄さんは、先生の葬儀を執り行うことと、財産を受け継いでお墓を守ることに、先生に約束されたそうです。私は、旧香北町を受け継ぐ香美市の市長として、野島元町長が先生と交わした約束を守るという立場で、財団、やなせスタジオ、フレーベル館の3者の方針に、口をはさませて頂きました。今後、より連携を深めていきたいと考えております。

香美市の将来を見据えて、先生が香美市に財団を設立し、財産を託されたことについて市議会のご意見も、本議会でご議論頂ければと思っております。

次に、NHK連続テレビ小説「あんぱん」についてです。

やなせ先生の命日から1週間後である20日に、NHKから令和7年春の朝ドラに「あんぱん」が決まったとの発表がありました。やなせ先生の奥様である暢さんが主人公ということです。

先生がお亡くなりになって10年ですが、世の中から先生のことが段々と忘れられているように、私には感じられます。例えば、10回忌の命日には、色々な報道などにより、先生のことが全国ニュースで流れるのではと期待しておりましたが、地元のマスコミ報道も含め、特に目立ったものはありませんでした。

市長として、何か策をと思っていたところの「あんぱん」放送決定ですので、このチャンスを最大限に生かすべく、全力で取り組む決意です。市役所での11月課長会では、市役所職員に向けて、日常業務に加えて「あんぱん」関連業務が加わり、確実に忙しくなるが、一生に一度の経験なので、頑張りたい。また担当課だけでなく、全ての職員が何らかの形でドラマに関わり、それぞれに達成感を感じて欲しい。そして成功させることができれば、それぞれの職員の自信となり、ドラマ後の市役所業務においても、住民サービスを向上させることができる、というような話をさせて頂きました。

そして、香美市役所だけが盛り上がるのではなく、香美市民を挙げて盛り上がりたいたいと思っております。そのための仕掛けとして、市民に朝ドラ「あんぱん」を盛り上げるアイデアを募り、補助を出すような取り組みも、来年度予算で検討したいと思っております。

香美市民には、GW や夏休みの道路渋滞など、ご迷惑やご負担をお掛けすることになります。が、県の支援も仰ぎながら、市として考えられる限りの対策を講じてまいりますので、ご理解ご協力頂けるようお願いいたします。

次に会計年度任用職員を含む職員の給与の増額についてです。

令和 5 年の人事院勧告を受け、給料表が令和 5 年 4 月 1 日に遡及して増額改定されます。私としましては、正規職員と同様に頑張っている仕事をしてきている会計年度任用職員のみなさんにできるだけ報いたいと思っており、原則として会計年度任用職員も正規職員と同じく遡及と増額改定を行うこととし、特別職を除いた総額で 3,936 万 7 千円の増額補正を本議会にお願いしています。また、将来的には勤務年数に従って一律に給与を上げるのではなく、仕事への取り組み姿勢、成果などを評価し、給与に差をつけていきたいと考えています。

また、管理職には、若手職員にロールモデルを示していただくとともに、部下の教育とマネジメントについて、より一層注力してもらいたいと考えています。このため、課長の役割、班長の役割、係長の役割を明確にし、例えば、班長よりも広い視野で、課全体に目配りできる課長補佐制に段階的に戻していくことも含め、新たな組織の在り方についても検討を進めてまいります。

次に、県内国保の保険料水準の統一の取り組みについて報告いたします。

県内国保を将来にわたって安定的、公平に運営していくために、県と県内 34 市町村は令和 12 年度の保険料水準統一を目指し取り組みを進めております。

市町村は、令和 12 年度の保険料水準の統一に向けて、計画的かつ段階的な国保税率の見直しを行う必要があります。

県の行った令和 12 年度推計を基に、令和 6 年度から 12 年度までの改定の参考資料とするため、各市町村において保険料方針を策定することとしており、香美市の方針としては、第一に被保険者への影響を考慮し、国保財政調整基金を活用した保険料税の抑制と激変緩和を考えており、当面は据え置きとした上で、見直し年度である令和 8 年度に県が行う再推計により、令和 9 年度から 12 年度の 4 年間で値上げをする方向で検討しております。

現在、保険料方針（案）について県と協議をすすめており、国民健康保険運営協議会のご意見を踏まえて決定し、3 月議会で詳細をご報告させていただきます。

次に、「5 つの基本政策と 4 つの横断的な政策に基づく香美市づくり」についてです。

最初に、基本政策の 1 つ目、経済の活性化についてであります。

電力・ガス・食料品などの価格高騰が続いており、コロナ後の経済活性化の足かせとなっております。そこで国は現在執行中の住民税非課税世帯への 1 世帯 3 万円の支援に加え、新たに 7 万円の支給を決定いたしました。香美市としましては、経済を下支えする政策として、迅速に支給すべく取り組んでまいります。

次に基本政策 2 つ目の健康長寿の香美市づくりです。

本議会の補正予算として、車イスや座位保持装置などの購入支援の予算を上げさせて頂いております。例年よりも申請が多いことに対応するものですが、今後とも障害者への支援を迅速に行い、障害があっても生き生きと暮らせる香美市を目指してまいります。

次に、香美市の障害者団体の新たな取り組みについてご紹介いたします。

10 月 16 日に、身体障がい者のための ChatGPT 講座という勉強会に参加しました。主催は、香美市身体障害者連盟です。

代表の福島富雄さんが、春に市長室にお越しになり、新たな障害者支援の話をする中で、デジタル化について取り組んでみようということになり、8 月からの 3 回シリーズで、ChatGPT を学ぶ講座が生まれました。講師は、SHIFT PLUS の鈴木康太さんです。

この取り組みの肝はスマートフォンへの音声入力で、身体にまひがあっても、ChatGPT など、高度なソフトウェアを、使いこなすことができるようになりました。障害があっても、最先端の技術に触れることができるのです。

当日、香美市の障害者支援について、ChatGPT を使って聞いてみる、ということが行われたのですが、残念ながら満足な回答は得られませんでした。香美市がインターネットに公開している情報を、ChatGPT が拾えなかったことが原因と思われます。

香美市としては、実際には他の自治体に負けない補助制度がありますので、HP での情報発信に工夫が必要だと改めて感じました。

今後も、この取り組みを応援するなどして、身体に障害があっても、デジタル技術を活用して、人との交流や社会参加ができるまちを目指してまいります。

次に基本政策 3 つ目の教育の充実です。

先月 11 月 20 日に、こども議会ということで、大栃中学校の皆さんがこの議場に来てくれました。学校での探究学習を踏まえた質問や、日頃の課題を解決するための質問など、レベルの高い内容だと感心しました。生徒の皆さんには、これからも香美市の課題に関心を持って頂き、将来の香美市を担って頂くべく、学習に取り組んで頂きたいと思います。

さて、その中の質問に、高校への通学費について、土佐山田までのバス料金を全額補助して欲しいとの要望がありました。こども議会の時点では香美市議会前でしたので、中学生には明確にお答えできなかったのですが、現状の高等学校等通学費補助金の基準額を 1 万円から 5 千円に引き下げる予算を計上させて頂いております。ご家庭にとっては、現状の 1 ヶ月 9,900 円のご負担から 1 ヶ月 5 千円と半分になる計算です。市議会の皆さまには、ご審議のほどよろしく願いいたします。

今後も、香美市で学ぶ児童生徒のご意見も聞きながら、できる限り市政に反映するべく、努力してまいります。

次に、学校給食費についてです。

食材の価格高騰が続いており、今年度の歳出予算に不足が見込まれる 1125 万 7 千円を補填すべく、補正予算を計上させて頂きました。

ここで少し学校給食費についてお話しさせて頂きます。

全国的に給食費の無償化が広がっていますが、私としましては今のところ考えてはおりません。食材の価格高騰が続いている中ですので、保護者負担の給食費だけで、食材費のすべてをまかなうことはできておらず、現状でも収支は苦しい状況です。

自治体によっては、子供たちが食べる給食の質にも、少なからず影響が出ていると聞きます。しかしながら、私としましては、香美市の子供達には、しっかりと質の良い給食を提供したいと考えております。

なお、就学援助世帯の給食費は市が全額を支給しています。経済的に厳しいご家庭の子供達は、今後も給食は無料で食べられることをお約束いたします。

次に、基本政策4つ目の市民を守る災害対策についてです。

香美市では、災害への備えとして、地域で助け合う「共助」について、さらに住民の皆様にも力を発揮して頂くべく取り組んでいます。現在、本市には178組織の自主防災組織があり、とりまとめの連絡協議会では、香北町、物部町、住宅地区、物部川流域、中山間地区の5地区に分かれ、各地区の災害特性に応じた地区会を開催して頂いています。今回の地区会では、住宅地区は防災対策課と消防本部が地震火災に関する講習を行い、それ以外の地区では、県の総合防災対策推進 中央東地域本部に講師を依頼し、参加された自主防災組織からは大変好評を頂いております。今後とも、市として自主防災組織を支援し、連携を深めることで、災害から市民を守るべく、一緒になって取り組んでまいります。

次に、補正予算として上げさせております、防災カギBOXについてです。

この防災カギBOXは、地震を感知して扉が開き、施設の鍵を手に入れることができる装置です。いざ南海トラフ地震発生となりますと、市役所の活動には限界があるため、地域住民自らが指定避難所を開設して頂く必要があります。地域で鍵を管理して日頃から使用している集会所などは、地域で開設することが可能であると思いますが、多くの避難者を収容することができる体育館など、規模の大きい施設については、施設管理者が鍵を管理していますので、地域で開設することは容易ではありません。開設できない状態が続きますと、多くの避難者が混乱し、疲弊してしまいます。このような事態を防ぐため、平成30年度から規模の大きい施設に、防災カギBOXの設置を進めており、現在、11施設に設置しております。

本年度は2施設を予定しておりましたが、さらに3施設を補正予算でお願いすることで、本年度に5施設の整備をさせて頂きたいと考えています。

引き続き、規模の大きい施設である残りの9施設について、可能な限り早期に設置できるよう、努力してまいります。

最後に基本政策5つ目のインフラの充実と有効活用です。

9月議会後も、秋の要望活動ということで、道路や河川の要望活動を行っております。この秋の要望では、村上副市長にそのほとんどをお願いしました。これまでの国土交通省での経験、人脈を生かして頂きたいという意図です。

国、県に対し、引き続き、インフラ整備に対する予算の確保と重点的な配分を要望してまいります。

今後とも、的確な要望につとめ、香美市民の安心安全と利便性向上を目指して取り組んでまいります。

次に都市計画についてです。先月11月1日に高知広域都市計画協議会が開催され最終案が決定いたしました。香美市の要望も反映されたものとなっており、新たな住宅開発による児童数の増加や、企業による新たな投資も呼び込めるのではと期待しているところです。

この緩和を生かして、若者世代が香美市に定住できるよう、積極的に取り組んでまいります。

続いて、4つの横断的な政策についてです。

1つ目は、親しまれ信頼される行政窓口への継続的な改善です。

香美市役所は慢性的な駐車場不足となっております。6月議会で、市役所南側の土地の鑑定予算を上げさせて頂きましたが、この度、地権者から2筆のうちの1筆についての売却の申し出がありました。

私としましては、約半分ではありますが、不足する来庁者用の駐車場の用地とすることができ土地ですので、予算を計上させて頂きました。残りの土地につきましては、今後、地権者が売却の意思を示すことになれば、購入を検討させて頂きます。

2つ目は、中山間対策の充実・強化です。

先月11月14日に、繁藤地区にて、休園、休校となっている若藤保育園と繁藤小中学校について、地元で意見交換会を行いました。休園となって17年・休校となって10年となるため、地元の皆さんからのご意見を伺い、今後の検討材料とさせていただくこととしました。

私の受け止めとしましては、地元の方々からは再開を望む声はなく、閉園、閉校になった場合の施設活用について興味を持たれているような印象でした。

また保護者の方々からは、通学への不便さについてのご意見が多数ありました。

私としましては、施設利用の可能性を広げるための閉園・閉校という結論が良いのではと考え始めたところです。

市議会の皆さまのお考えもお聞きをして、教育委員会とも相談しながら、今後の進め方について検討してまいります。

3 つ目は、こども施策の充実と女性活躍の場の拡大です。

本議会では、香美市結婚新生活支援事業費補助金を追加で 2 件分計上させて頂いております。これは、当初予算で計上していた 5 件分が既に埋まったためです。この補助金は、香美市で新生活を送ることを応援する予算であり、今後もしっかりと PR させて頂いて、多くのカップルに香美市を生活の場として選んで頂くべく取り組んでまいります。

次に、不妊治療費助成金についてです。こちらも追加で 12 件分計上させて頂いております。子供を望んでいるカップルを応援するべく、計上させて頂きました。この補助金につきましても、できる限り予算を確保して、少子化の課題を解決するよう努力してまいります。

最後に 4 つ目の文化芸術とスポーツの振興です。

今年も、香美市芸術祭が 9 月 23 日から 11 月 26 日まで開催されました。私は、プラザ八王子での文化展、中央公民館での芸能大会、土佐山田合唱団の定期演奏会に参加させて頂きました。多くの香美市民が発表し、参加されたことを嬉しく思います。

また香美市体育大会では、香北体育センターでのバドミントン大会でご挨拶をさせて頂きました。この大会の優勝チームには、kamica ポイントが与えられるということで、カミカの普及・PR にもご協力頂いております。身体を動かすことは健康につながることから、運動へのモチベーションアップにカミカを利用する取り組みは、色々なスポーツ団体にもご紹介したいと思っております。

香美市には、体育館やグラウンドなど、私が市長就任後に整備が完了した施設が多くあります。こういった施設を有効活用し、スポーツを楽しむ市民をどんどん増やしていきたいと思っております。

今後とも、文化芸術やスポーツを、しっかりと楽しめる香美市となるように努力してまいります。

以上、5 つの基本政策と 4 つの横断的な政策についてご説明させて頂きました。